Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Impact of Glissonean Pedicle Approach for Centrally Located Hepatocellular Carcinoma in Mongolia

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Chinburen, Jigjidsuren メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10470/31322

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙 第 2880 号	氏　　名	Jigjidsuren Chinburen
審　査　委　員　会	主　査　教　授	尾﨑　眞	

論文審査の要旨（400 字以内）

モンゴルでは肝中央部に存在する肝細胞癌についてはこれまで半肝切除や拡大切除を行ってきた。しかし、既存の肝障害のために高率に肝機能障害を始めとした術後合併症を生じる。

2008 年にモンゴルではグリソン鞘一括肝切除を導入した。グリソン鞘一括肝切除は特に肝中央部に存在する肝腫瘍に対しては新たな肝切除法として注目される。肝中央部に存在する肝細胞癌に対して 69 例の患者で、半肝切除や拡大切除による従来の方法に対して、グリソン鞘一括処理による肝中央切除を後方視的に比較検討した。

グリソン鞘一括肝切除では従来法と比較して、術中出血、合併症、在院日数、術死率、術後生存に関して同等あるいは有意に良好であった。従来法の術後1，3，5年生存率は74％、64％、55%に対し、グリソン鞘一括処理肝切除の1，3年生存率は 88％、61％であった。グリソン鞘一括処理は肝中央部に存在する肝細胞癌に対して安全で有用な手術手技と考えられた。

本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に学務部医学部大学院課へご提出下さい。（本学学会雑誌に公表）[学校教育法学位規則第 8 条]